

税はみんなの命を守る

鷲森未夢（愛知県・愛知県高浜市立高浜中学校）

「任意接種の子宮頸がんのワクチンを打とうと思うのだけど、どう思う？」

ある日、母にそう聞かれた。「子宮頸がん？ワクチン？どういうこと？」今まで聞いたことのない言葉に、頭の中がハテナでいっぱいになった。母に「自分でも少し調べてみて」と言われたので、インターネットで調べてみると、自費で接種した看護学生の意見が載っていた。「看護学生になるまで、存在を知らず、自費で接種し、約五万円かかった。だから、公費で接種できるうちに考えてほしい。」と書かれていた。

今回、税についての作文を書くとなったときに、真っ先にこの出来事を思い出した。私は「そういえば、コロナウイルスのワクチンも税金で受けられるな」と思い、母に

「私って予防接種、他に何受けた？」

と聞いた。すると母子手帳を持ってきてくれた。見てみると、私は子宮頸がんだけでなく、小さいころに多くのワクチンを税金で受けていることが分かった。例えば、はしか。はしかは、感染力がとて高く、これにかかると免疫が低下するため、他の病気にもかかりやすくなる。戦前の日本では、一年で一万人以上の子どもがはしかにより亡くなっていたそうだ。ほかにも日本脳炎。これは、致死率が 20 パーセントから 40 パーセントと高く、回復したとしても、約半数の人に後遺症が残ってしまう恐ろしい病気だ。挙げていくとキリがないぐらいだった。私は、怖くなった。この予防接種が自費であったら、そのうちのいくつかの接種を見合わせていたかもしれない。そのせいで、防ぐことのできたはずの病気にかかってしまっていたらと。

税についての作文があることを初めて知り、去年の受賞作品をいくつか読んでみた。その中で、私は税に命を救われて、とても感謝している人がいることを知った。一般的に、多くの方は、大きな病気にかかったことがなく、「税金が高くていやだな」と思っている。実際、私もそう思っていた。けれども、病気を治すことだけが命を救うことなのだろうか。病気にかからないようにすること。これは、病気を治すこと以上に重要なことで、意味のあることではないか。直接的ではなく、気が付きにくい、まさに命が救われているのだ。

この作文を書くために調べたり、考えたりして、税は私たちの「日常」を守ってくれているのだと感じた。税に対する感情、意見、見え方はそれぞれ違っていると思う。けれども、これはどんな人だとしても確実に言える。

私たちは皆、税によって命が守られているのだ。